



◎今号の質問者
森眞理さん(木曜唄ヶ谷教室)
【質問テーマ】韓国の伝統衣装を美しく身につけようためのポイントについて教えてください。

——趙寿玉先生は、舞台衣装を美しく着こなすだけでなく、練習用の「チマ①」もきれいに巻いていらっしゃいますよね。着方にコツがあるのでしょうか。
趙 チマはとても長いので、動くには邪魔になるときもあります。そういうときは裾を少し上げて紐やピンで括ったりとめたりします。しかし実用性だけを考えるのではなく、どうすれば「粋」に見えるのか、ということ

関心を持って美の尺度を身につける

練習着でも衣装でも考えます。たとえば、布にふくらみを持たせて曲線を美しく見せたり、括るることによってできるしわの寄り方や、紐の結び目の位置も工夫したりします。そういった点は、ふだん洋服を着るときと同じなのではないでしょうか。ボタンのとめかた、袖の折り方、ベルトの締め方、みなさんそれぞれこだわりがあるのと一緒です。あとは、わざとらしくなく、自然に見えることを心がけています。

——それにしても、きれいにかつ自然に見せるのは難しいことですね。

趙 何回も着て感じることも大事ですね。そうでないと、いくら形を作ってもぎこちなくなってしまうんです。そして何度も袖を通すことによって襟元のシルエツトが美しく見える姿勢も自然に身につけてきます。チョゴリの「コルム②」も、ピンと真四角に固定してしまうと、自然な感じがしません。ほどよい絞り加減があるのですが、これも繰り返して結んでいくうちにわかってくるものだと思います。チマ、チョゴリに関心を持つ、美の尺度を磨くみたいな事が大事なのかなあ。

——絹などのデリケートな素材の韓国衣装はしわがでやすく、アイロンをかけるのも大変です。

趙 アイロンがけは、衣装のしわを飛ばしてきれいにするためのものです

が、その過程も大事だと思います。気持ちを含めてアイロンがけをすることによって心を清められますし、それがひいては舞台に立つ身体的な準備もさせてくれますよね。そして、きれいになった衣装を、凛とした思いで袖を通すことによって気持ちがひきしまり、その事により、舞台へ挑む心構えも変わってきます。

——「チョヨ」③「ノリゲ④」といった装飾品も素敵なものが多いですね。

趙 種類も多いですし、素材や値段も手ごろなものから高級なものまであります。色や形などをしっかり見て、自分が心から惹かれるものを身につけたいですね。ノリゲは装飾品であることにお守りの役割もあり、その内容によって形態が変わってきます。そう



「これまでになかった黒染めのナビチュム衣装は、私の踊りに個性を現すことになりました」

撮影◎和田咲子

いった意味も知っておくといと思えます。

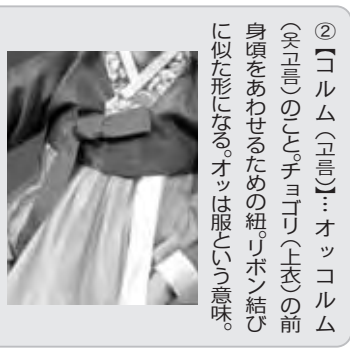
——10月10日の公演(2面参照)の際の舞台衣装はどれも洗練された美しさがありました。

趙 今回の公演でもっとも悩んだのは「ナビチュム(나비춤=蝶の舞)」の黒い衣装です。デザイナーの李悽潤(イ・ソユン)さんが考案されたのですが、「ナビチュム」の衣装は白色が一般的で、ほかの色を着ている舞台を私自身も見たことがないので、本当に悩みました。しかし私自身、僧舞の長袖は黒を使う事が多く、墨染めには惹かれる思いがありました。暫くして友人から、韓国の僧侶の修行は墨染めから始まると新聞で読んだ事があると聞いて、直ぐに迷いはなくなりました。

結果的には私の「ナビチュム」の個性を表すこととなり、とても満足しています。



①「チマ(치마)」: 韓国衣装の下のつまみスカート



②「コルム(고름)」: オッコルム(吳古言)のこと。チョゴリ(上衣)の前身頃を合わせるための紐。リボン結びに似た形になる。オスは服という意味。



③「チョヨ(치요)」: 女性のチョヨク(簪)を挿すかんざしのようなもの。



④「ノリゲ(노리개)」: チョヨリやオッコルムチマの腰に下げる装飾品。

資料写真◎朝鮮王朝の衣装と装身具(淡文社より)

感想文

趙寿玉・韓国舞踊リサイタル

五方舞Ⅲ「砂雁抄」を観て

去る10月10日に行われた趙寿玉先生の6年ぶりのリサイタルは、多くの方々のおかげで大盛況に終えることができました。当日、来て下さったお客様、舞台にかかわってくださった方など多方面から感想をいただきました。



観客席から

言葉無くとも

心の奥底へ語りかける

尾身直子

10月10日、めぐろパーシモンにて趙寿玉の舞を観る。趙寿玉との出会いは友人に連れられて参加した教室での体験コース。そのときは眼差しは



撮影◎和田咲子

立舞(包含)

た。「素晴らしい」とか「ラポー」といった月並みな賛美を超えた深い何かを感じた。この「何者」かに囚われて息苦しくさえもなる。後半のズンと響くような撥さばきの太鼓の音も含め鬼気(といっってよいのかどうか……)迫るような蝶の舞、そして僧舞であった。この後の単独の奏者たちもまたレベルが高

く、同様の気迫を感じた。

そして最後のサルプリ舞。客席の間をぬいながら、くるくると華やかに舞台へ上がった後、白い布を手に、語りかけるように舞は続く。白い布は赤子のようにでもあり、愛しい人のようでもあり、また死者のようでもある。ふわふわと優しく両手で持った布が動くさまを観ていたら、胸がつぶされそうに切なく、涙があふれてきた。

なぜだかわからなかったが、後で友人に聞いたところ「鎮魂の舞」であるとのことだった。奏者達との呼吸も素晴らしい舞台の「気」が曲線を描くように変わっていく。終演後もある種の疲労感が残るくらい張りつめ、強い「気」の塊のステージだったと私は感じた。

感想文を依頼されたが、こちら側とあちら側の道をひたひたと舞いながら行きかい、言葉無くとも心の奥底へ語りかける趙寿玉の前では月並みな言葉は無力である。

(おみなおこ・ピアニスト)

観客が自ずと

身を任せる踊り手

韓興鉄

暗い照明が差す舞台上の張り詰めた空気を、時にやさしくなで、時に力強く突き動かす手巾(スゴン)。私はサルプリ舞を舞う趙寿玉先生の表情の変化を追いました。けれども、そこから何かを読み取るうとする私の期待を裏切り、先生の表情は微動だにしません。この公演を捧げたいと言った、故宋和映先生と向き合っているのでしょうか、それとも心を空にして、何かをつかもうとしているのでしょうか。

巫楽が興じるにしたがい、手にやさしく握られた手巾は、徐々に踊り手の意思から離れ、自由に宙を舞っていき、最後に観客を優しく包み込んだような気がしました。

せわしない日常から、人間が本来もつ時間を取り戻させてくれ、リセットした気分になりました。私がもう少し若かったころ、韓国舞踊の中で好きな演目は、華やかで動きがある「太平舞」(テピョンム)でした。五拍子のリズムと、それに合わせ力強く踏み出す足の動きはいつも私の心を高鳴らせました。

今回サルプリ舞をあらためて見て、太平舞が圧倒的な踊り手の力で観客を魅了するのに対し、サルプリ舞は踊り手の力だけでなく、自らの身体に外部から何らかの力を引き込んで表現するチュムであるような感じがしました。力のある踊り手に観客も自ずと身を任せ、プリ(解きほぐす)する過程を共有します。踊り手にはそれだけの力が要求される、難しいチュムだと思いました。

趙寿玉先生が師事した李梅芳先生は、「サルプリ舞には年輪と熟達が必要なんだよ。漬け物が発酵して味わいが深くなるように、踊れば踊るほどしっかりした味になる」と言われたといえます。サルプリ舞を踊り続け、発酵した趙寿玉先生のチュムを、これからも見られることを楽しみにしています。

そして最後になりましたが、趙寿玉先生、6年ぶりの単独公演、おめでとうございます。

また音楽やチュムを披露して下さった出演者の方々、そして、この公演を準備され、成功裏に運営された主催者の方々に対し、素晴らしい舞台を見せていただいたことに感謝を申し上げます。

(ハンフンチョル・編集者)

スタッフから

正解のない世界で

澁谷博史

「五方舞Ⅲ 砂雁抄」で照明を担当された澁谷さんに、公演のお話を伺いました。

いいものが見られて、役得でした。ただずっと金魚鉢(ガラス貼りの調光室のこと)の中にいたので、演奏が生音で聞けなかったのが残念だったけれど。

寿玉さんの踊りは、さすがでしたね。先生と呼ばれる人、人に教える立場の人とはそういうものですが、何かが違う。着こなしたか身のこなしか、オーラもね、具体的に何がどういふこととは言えないけれど、全然違う。やっぱり凄いですよね。

演じる人が素晴らしければ、照明はシンプルでいいんです。今回は馬頭琴のアランズ・バト・オチルさんも、小鼓の盧慶順さんも素晴らしかったから、全体的にシンプルにしました。

「苦勞なさった点はありますか。」

構成ですね。踊りや演奏がみんな同じように見えてはいけないし、統一感もないといけないから、構成が大変でした。あとは曲のバックグラウンドというか、曲に対する前知識がなかったこと。公演当日にプログラムを読んで、こういう曲だったんだと知ったくらいだから(笑)。前もって進行表と、「照明はこうして欲しい」というある程度の指示はもらっていたけれど、顔合わせのときに初めて実際の踊りを見たら、思っていたものと違っていたので急遽変えたり。顔合わせという、公演の数日前ですよ。

照明の仕事には、そういうことは付き物。踊りの照明には正解ってないんですよ。ブルー一色の舞台でだって踊れるし。

韓国へ行っていろいろ踊りも見ただけれど、韓国舞踊は、まだわからない。でもこのごろは日本でもずいぶん韓国舞踊を見られるようになったから、それは本当にいいことだと思いますね。

澁谷さんは、演劇を中心に「コンサートやバレエなど幅広いジャンルで照明のお仕事をされ、30年というキャリアをお持ちです。」「韓国舞踊はわからない」と仰りながらも、経験に裏打ちされた確かな技術と感性があたりだったから、印象的な舞台が生まれたのだと感じました。

(じぶやひろし、舞台照明家) (聞き手 柏木美奈)

生徒から

ポソンが スローモーションのように

小菅優子

鐘の音が響く薄暗い舞台に、溶け込むような黒い衣装、その中で両手の白い花が浮かび上がる。プロローグにふさわしい静謐な空気の中で、「ナヒチュム」が始まりました。

お寺や教会の鐘の音とも取れる澄んだ音が舞台にこだまし、モンゴルの音楽家による、お経のような低い声が響く。その中で寿玉先生が、静かに美しく、しかし力強く舞っている。途中、白い衣装に赤や黄の装飾が鮮やかな、巫女のような二人が現れると、気迫さえ感じる寿玉先生の両脇に天からの使者が加わり、そのおごそかな雰囲気はまるで、何とも美しいお葬式に出く

わしたようでした。

次の「僧舞」は、いつも増してリズムカルで迫力のある舞でした。動きの美しさだけでなく、演奏陣と一体になって舞台いっぱい優雅に舞い踊る寿玉先生が、ひととき大きく見えたのが印象的でした。

「ナヒチュム」は、最初の2曲とは、がらっと印象を変えたものでした。黄金色のチョゴリに赤紫色のチマ。そのチマの裾から、薄茶色のソッチマに施された大きな花柄が見え隠れする。髪型も頭の上に大きなお団子をつけて、艶やかな衣装とともに軽い笑みを口元に浮かべながら舞う姿は、天からのスポットライトを浴びて、雑踏の中でそこだけ輝いているような印象を受けました。

普段あまり見ることのない、とても女らしい舞でしたが、その中にも寿玉先生ならではの凛々しさが表われていて、独特の美しさを醸し出していました。

最後の舞は「サルプリ舞」です。白い衣装に包まれ、神がかったような寿玉先生が楽師に続いて客席から登場すると、普段よりも激しい演奏、激しい動きのサルプリ舞が始まりました。舞台を縦横無尽に踊りまわる早い動きにもかかわらず、衣装より白いポソンの美しいこと。ポソンだけスローモーションのように際立っていました。寿玉先生がのとき着ていた



撮影◎和田咲子

サルプリ舞 小菅優子

のは、アイボリーのサテン地(※)にこげ茶の襟元と袖口が、アクセントの衣装です。白一色でないこの色づかいが、今の寿玉先生そのままを表している、そんな印象を受けました。

時空を超えた美しさをさまざまな方法で表現されていた今回の舞台、宋和映先生も喜ばれているはず。自然にそんな考えが浮かぶリサイクルでした。

(こすげ ゆうこ・木曜曙ヶ谷教室)

※実際は手織りの絹を砧で打ち 光沢を出したものの。その古い布を見つけて、それを李悽潤先生のお店で作って頂きました。

新人さんコーナー

韓国舞踊熱にかかつて

川嶋環

「明日踊りの練習があるのになんかどうしよう！」

最近、不注意から転倒し両膝を怪我した瞬間頭に浮かんだのがこの言葉でした。幸い、擦りむいて血が出た程度でしたが、プロの舞踊家でもない私が、こんな風に思うくらい韓国舞踊は私にとって大切な存在になってきていると感じました。

数年前に見た一本の韓国映画。それは、一組の男女の出会いから別れについて描かれた映画でしたが、とても切なく、美しい韓国の風景と共に私の心に静かに響きました。その映画がきっかけで、韓国映画が好きになり、韓国語の勉強も始めました。

学ぶにつれ、他の韓国文化について、もっと知りたいと思うようになりまし

た。また、韓服の美しさを目にし、いつか着たいと思っていたことや、日頃運動不足が気になっていたり、そんな思いが結びつき、韓国舞踊に辿り着きました。

韓服を着て、優雅に微笑む、そんな印象の韓国舞踊でしたが、実



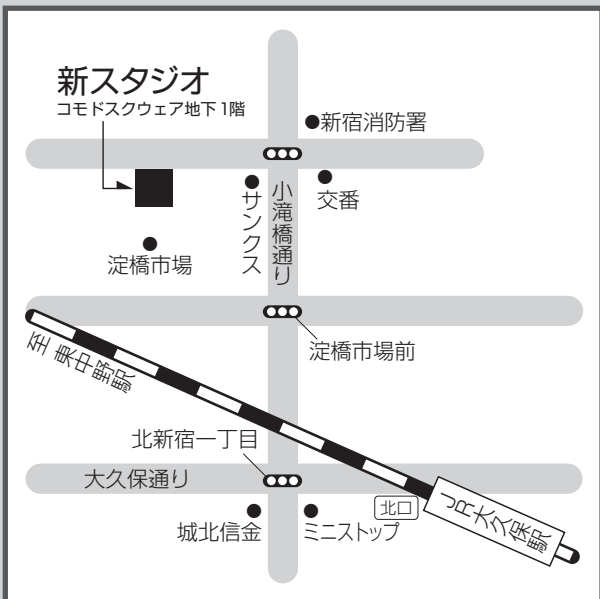
際踊ってみると、腕やお腹・脚がブルブル震えて、微笑む余裕などありません。ゆったりした動作は思いのほか難しく、「耐えて」と言われても、耐えられず一歩踏み出してしまいます。何度教えてもらっても出来ない自分に腹が立つやら、情けないやら…(涙)。そんな私にいつも根気強く、優しく、時に厳しく教えて下さる先生や先輩方には、とても感謝しています。少しでも踊れるようになりたいと、練習時間は、只ひたすら踊りの事だけ考えています。丹田に力を入れる、踵から下ろす、それから踊りの順番と、気を付ける事が一杯あり、他の事を考える余裕が無いのが、本当の所ですが…。

教室はいつも、韓国舞踊が好き！という先生や先輩方の熱い気持ちで溢れています。韓国舞踊に対する熱い思い、それは決して冷めず、また伝染もするようです。そんな熱気を受けて、私もひたすら練習！練習！です。(かわしまたまき・木曜曙ヶ谷教室)

「趙寿玉チュムパンの会」韓国舞踊スタジオ 開設のお知らせ

長い間念願だった、韓国舞踊スタジオを開設出来る事になりました。これまで練習場を確保するために、あちらこちらと移動を余儀なくされ、また太鼓などの練習には、大きな音の問題や運搬などの面で、たいへんな苦慮をしてまいりましたが、やっとホームスペースを持てる事になりました。狭い場所ではありますが、この上もなくうれしい限りです。これも皆様のご支援のお陰と、心よりお礼申し上げます。

趙寿玉チュムパンの会 代表 橋本 幸子



東京都新宿区北新宿4丁目3番11号 (JR 大久保駅北口徒歩8分)

活動報告

●2008年10月10日(金) 五方舞Ⅲ 砂雁抄を行う (東京) めぐろパーシモン小ホールにて



●2008年10月13日(月・祝) 民団鳥取県本部シオレマダン 趙寿玉チュムパンの会公演を行う (鳥取) 琴浦町日韓友好交流公園風の丘公園内「待風亭」にて



●2008年11月13日(木) 緑園サロン公演を行う (神奈川) 神奈川緑園なえぼ保育園にて

今後の予定

●2008年12月21日(日) おさらい会 (東京) 榎木町地域センター(新宿)にて

●2009年2月28日(土) “つながる歌 つながる舞 つながる命” ~戦争と女性の人権博物館建設のための チャリティーコンサート~ (東京) 一ツ橋ホールにて



●2009年3月21日(土) 滅紫月 韓国伝統音楽舞踊公演 咸洞庭月流 カヤグム散調 vol.15 (東京) 鏡仙会能楽堂(青山)にて

*会報21号では3月20日(金)となっていました。訂正いたします。

問い合わせ先: チュムパンの会事務局 03-3269-3258 趙富子